

宮島浦

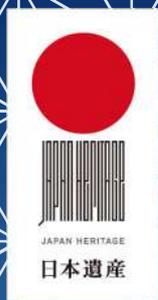
現在の徳島市川内町宮島本浦周辺は、寛文12(1672)年に第四代藩主・蜂須賀綱通が、第十から姥ヶ島までの水路を開削して、吉野川の水を新川(別宮川)に導水したことで、鶴島・宮島の川湊として栄えました。

当時、徳島には撫養港、徳島港(吉野川河口周辺や津田)、小松島港の3つの主要な港があり、徳島の生産品をこれらの港に集積し、江戸や大阪へ輸送していました。特に阿波藍は特産品であり、藍商人は都市を通じて全国へ販路を広げました。その中で、菱垣廻船で江戸へと販路を伸ばした者を「関東売」、大阪積廻船で大阪へと販路を伸ばした者を「大阪売」と呼び、関東売は主に小松島港や鶴島・宮島港から、大阪売は主に撫養港から出荷していました。

『傾城阿波鳴門』に登場する十郎兵衛のモデルとなった板東十郎兵衛は、寛文7(1667)年にこの宮島浦で庄屋となり、藍玉関東売積み出しの重要な役職に就いていました。当時、鶴島・宮島の藍商は問屋売を遵守していましたが、小松島の藍商は問屋を介さない直売・振売をしており、両者は対立していました。十郎兵衛は、小松島の藍商を相手に問屋着の厳守を求めて訴訟するなど、宮島浦の藍商を守るために尽力しました。

また、藍の繁栄の裏で米不足に悩まされていた徳島藩は、幕府から禁止されていた米の輸入を行っていました。十郎兵衛は他国米の荷揚げ監視役も務めていましたが、その中で貞享2(1685)年、輸入していた肥後米をめぐる船頭といさかいを起こし、嫌疑をかけられます。この一件が幕府の耳に入れば、藩の存続問題に発展すると考えた徳島藩は、十郎兵衛の罪状を明らかにしないまま元禄11(1698)年に処刑してしまいました。

十郎兵衛は、小松島藍商との訴訟の解決を見ることなくこの世を去りますが、元禄15(1702)年、問屋着の厳守と不正売買の取り締まりが約束されました。これによって、一時的に両者の対立に決着が付き、宮島浦の藍商達は公平な取引を続けられるようになりました。



宮島浦には、江戸時代に栄えていた痕跡が現在も残っています。宮島金刀比羅神社の石燈籠は、「豊前豊後組」が天保 15(1844)年に寄進したもので、寄進した藍商人の名前が記載されています。

この付近は、文化年中(1805～1818)に小松新田が開墾され、明治38(1905)年頃に江湖川付近が埋め立てられるまで入り江でした。宮島金刀比羅神社は、海上安全の神社として徳島藩主蜂須賀家からも崇敬されており、江戸への行き来の際はここで祈祷を受けていたと言われていました。この石燈籠を寄進した藍商人の所在を見ると、西は現在の吉野川市、北は現在の藍住町や北島町と、広い範囲に分布していることが分かります。これほど多くの藍商人から信仰を集められたのは、宮島浦が阿波藍の商売をするうえで欠くことのできない湊であったためであり、石燈籠はその重要性を示しています。



宮島金刀比羅神社

【参考文献】

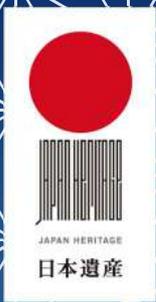
泉康弘「吉野川平野への魚肥移入と阿波藍」『日本水上交通史論集』第3巻 1989

上村雅洋「阿波国撫養をめぐる商品流通と廻船」『日本水上交通史論集』第3巻 1989

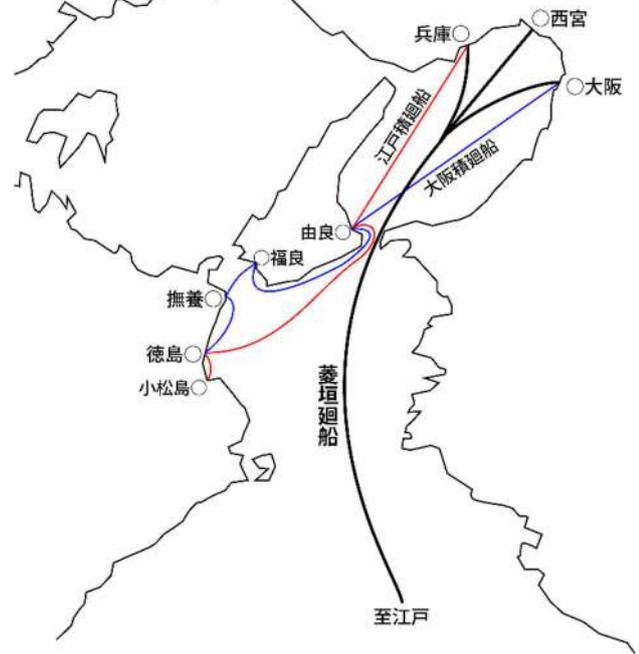
川内村役場編 『川内村史』 1937

西野嘉右衛門 『阿波藍沿革史』 1971

三木與吉郎編 『阿波藍譜』史話図説篇 増補版 1963



宮島金刀比羅神社 石燈籠



江戸時代後期における主要航路略図
(阿波藍沿革史を元に作図)



石燈籠に記載されている藍商人の所在地

藍のふるさと阿波~日本中を染め上げた至高の青を訪ねて~

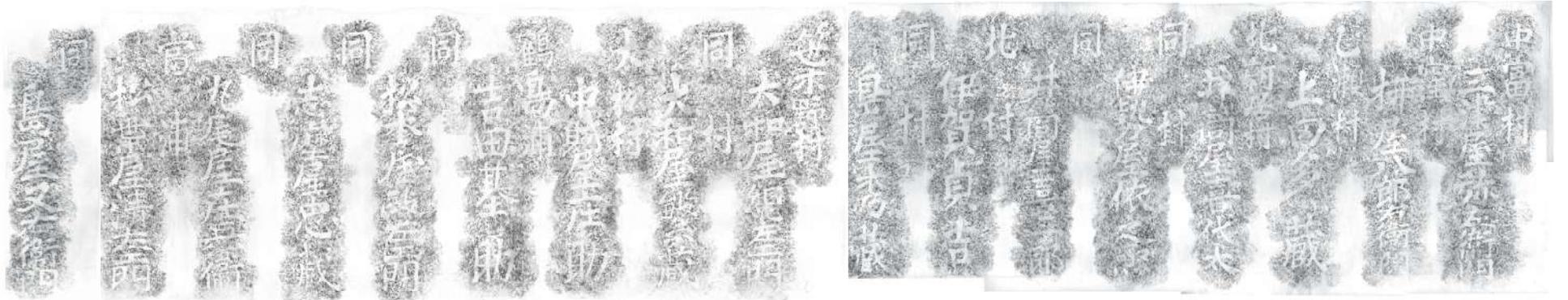
宮島金刀比羅神社石燈籠 西面



藍屋中

- 鈴江村
- 齋藤次右衛門
- 同村
- 三津屋善右衛門
- 西新町
- 奈良屋彦兵衛
- 高畠村
- 田中屋新助
- 高瀬村
- 金屋丈兵衛
- 麻植塚村
- 足立紋右衛門
- 丑ノ島村
- 岡田彦兵衛
- 西條村
- 野田茂七郎
- 鴨島村
- 対馬屋総右衛門
- 兒島村
- 大島源左衛門
- 川田村
- 森屋熊五郎
- 大万村
- 藍屋善兵衛
- 勝命村
- 竹内忠左衛門
- 桑内村
- 和泉屋多次郎
- 姥ヶ島村
- 富永太左衛門

宮島金刀比羅神社石燈籠 東面



- 中富村
- 三津屋弥左衛門
- 中窪村
- 柳屋八郎右衛門
- 乙瀬村
- 上田多藏
- 北新居村
- 井筒屋喜代太
- 同村
- 伊勢屋依之丞
- 同
- 井筒屋喜三郎
- 北村
- 伊賀貞吉
- 同村
- 島屋秀藏
- 笹木野村
- 大和屋総左衛門
- 同村
- 大和屋繁藏
- 大松村
- 中財屋庄助
- 鶴島浦
- 吉田基助
- 同
- 松本屋政左衛門
- 同
- 志摩屋忠藏
- 同
- 丸尾屋庄兵衛
- 当浦
- 松葉屋清左衛門
- 同
- 島屋又右衛門